

令和7年度

学校（自己）評価報告書

岩見沢市立幌向小学校

学校名	岩見沢市立幌向小学校							
校長名	國行 宏昭				教職員数		27名	
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	1	2	1	1	2	2	4	16
児童 生徒数	19	42	35	35	41	44	9	225
住所	岩見沢市幌向南2条1丁目180番地							
電話	0126-26-2100							
FAX	0126-26-5207							
URL	http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/index.php/contents/item/150627							
e-mail	horomuis@edu.hamanasu.com							

I 学校教育目標

よく考える子

自主的に学習し、よく考え創造する子どもを育成する。

明るく すなおな子

明るくすなおで、思いやりのある豊かな心の子どもを育成する。

元気で たくましい子

ねばり強くやりぬく、たくましい子どもを育成する。

Ⅱ 中期及び単年度の具体的目標

- 幌向小学校は子どもたちにとって、明るく元気に楽しく学び、過ごせる場。保護者にとって、安心して我が子を通わせ、共に学びに参加できる場。地域にとって、生涯学習実現の一つの場であるとともに、子どもたちの育成を通して社会づくりに参加できる場であってほしい。私たちは、学校の持つ公的使命を十分に自覚し、児童の「生きる力の育成」の実現に向け、家庭・地域社会から信頼される学校を創造していかねばなりません。そのために、まず子どもたちを私たちの価値観（教育観）の真ん中に据え、「子どもたちにとってよい教育を進めるために、自分たちは何をすべきか（何ができるか）」を常に考え、教職員が一丸となって様々な課題に臨み、アイデアを出し合って解決し、その成果を共に喜び、分かち合う、教職員集団であり続けることを願います。
- また、岩見沢市教育行政方針「子どもが煌めく学校教育の推進」の実現に向けて、これまでの教育活動や指導の在り方を日々、検証・改善をしながら教育活動を行い「自立した学習者」の育成を目指します。そのため、自ら課題を発見したり、他者と協働したりしながら課題を解決する活動をとことんや豊中学校とともに充実させ、あらゆる教育活動において「進んで考え、みんなで創ること」を大切にしたい取組を組織的な学校運営により実現し、児童も教職員も笑顔あふれる学校を創造します。

そこで、次の5つの方針により学校経営を推進します。

幌向小学校の子どもと教職員の笑顔をつくるために

- ① 「学校づくり＝授業づくり」の理念を共有し、学び続ける学校組織を目指し、授業改善を根幹に不断の努力を積み重ねていきます。
- ② 地域・異校種（とことん・豊中）連携を進め、幌向小らしい魅力と特色ある教育活動を展開します。
- ③ 徹底して児童理解に努め、児童一人一人の発達課題に寄り添った積極的な生徒指導を行います。
- ④ 「児童の姿」から教育活動を振り返り、常に検証と改善に努めます。
- ⑤ 全職員が、健康で幸せに働くことで、笑顔あふれる豊かな教育活動を展開します。

めざす学校の姿・子どもの姿・教職員の姿

【子ども】志高くたくましく生きる子ども

～夢を追いかけ楽しく学び感謝の心を忘れない幌向の子ども～

【学校】子どもの笑顔があふれ、元気に挨拶を交わす学校

教師が安心して働き、自己の資質・能力を進んで高める学校

様々な意見に耳を傾け、保護者・地域の負託に応える学校（CA）

【教師】児童に寄り添い共感し、成長を支援する教師

「教える専門家」「学ぶ専門家」である教師

働き方を見直し、心身ともに元気に子どもに向き合う教師

Ⅲ 各種具体的な計画

◇重点1 自立した学習者を育てる授業づくり

(1) 到達目標

標準学力検査(NRT)の結果、国語・算数ともに前年度より向上した児童を80%にする。(令和8年4月実施のNRT結果での判断)

(2) 中間目標

学期末ごとの授業評価(児童アンケート)で以下の調査項目の結果を向上させる。

- ① 自分の考えや思いを自分の言葉で伝えている。(後期目標90%)
- ② 友達と伝え合い、協力しながら学習している。(後期目標90%)
- ③ わからない問題や難しい問題にも挑戦している。(後期目標90%)
- ④ 学習で間違えても、できるまでやり直しをしている。(後期目標90%)

(3) 具体的な手立て

子どもが主人公になる「授業づくり」の推進を通して、主体的に学ぶ児童(自立的学習者)を育てる。

① 子どもの声が響き合う授業の展開

- ・幌向スタイルを徹底し、子どもの思考に働きかけ、子どもの声が響く授業展開
- ・子どもの「問い」や「願い」による学習課題の設定
- ・学習成果を生かす(発信する・発表する)アウトプットの機会の日常化
- ・中学校につなげる学習スキルと学習ルールの徹底
- ・効果的な振り返りによる

② 教師の授業スキル向上に向けた実践的な研修の推進

- ・積極的な授業公開(一人一実践)に基づいた校内研修の推進
- ・豊中校区小中連携による研修の推進
- ・「他に問い、他に学ぶ」姿勢で行う公開研究会の開催
- ・関係機関と連携した研修の推進

③ ICTの活用による授業改善。子どもの学び方の育成

- ・対面指導とともに、遠隔・オンライン教育とを使いこなすハイブリット化の推進

④ 自ら学ぶ子どもを育てる家庭学習の取組

- ・デジタル教材を活用した基礎学力・学習習慣の定着(学年×10分)

◇重点2 自分の思いを実現できる仲間づくり

(1) 到達目標

- ① hyperQ-U検査の結果、学級生活満足群を90%にする。
- ② 嫌なことアンケートで、誰にも相談しないを0にする。

(2) 中間目標

学期末ごとの学校評価(児童アンケート)で以下の調査項目の結果を向上させる。

- ① 学級や周りの人のためになることを進んで取り組んでいる。(後期目標90%)
- ② 仲間と話し合いながらよりより活動を決められる。(後期目標90%)
- ③ 仲間の良さを認め、違う考えも聞くことができる。(後期目標90%)

(3) 具体的な手立て

「よりよい人間関係づくり」の取組を推進することで、支持的・親和的な学級をつくり、児童の居心地の良さを高める。

- ① 支持的・親和的な人間関係を基盤に「やってみたい」を実現する集団の育成
 - ・ピア・サポート活動年間プログラムの作成と計画的な実施
 - ・異学年交流等、仲間同士で相互に支え合い「あこがれ」と「思いやり」を育む活動の推進
 - ・特別活動を中心とした「みんなの学校づくりプロジェクト(仮称)」の推進
 - ・授業時数特例校制度を活用した特別活動の充実
- ② 児童理解を目指した教育相談の実施と職員間の日常的な児童の実態交流の充実
 - ・いじめ、不登校の徹底予防に向けた児童一人一人との関わり(定期・不定期の教育相談)の実施
 - ・全校児童を全職員で育てる姿勢をつくる校内指導員会の定期開催
 - ・支援や配慮が必要な児童に対する校内委員会を通じた組織的な児童支援の実施
- ③ 「特別の教科道徳」の時間の充実
 - ・自分事として考え、議論する道徳の授業の充実
 - ・外部講師を活用した研修会の開催
 - ・参観日などでの道徳授業の積極的な公開による、家庭と連携した豊かな心を育む活動の共有

◇重点3 地域を知り・地域に働きかける学びづくり

(1) 到達目標

児童がふるさとに愛着を持ち、地域の魅力を語り、地域・保護者は児童の教育の当事者意識を持つ。全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある」に対し、肯定的回答を90%以上にする。

(2) 中間目標

学期末ごとの学校評価で以下の調査項目の結果を向上させる。

(児童) 地域の人とふれあったり、まわりの自然や環境を生かしたりする学習を楽しんでいる。

(保護者) お子さんは、本校ならではの学習活動を楽しんでいる。

(教職員) 地域の教育資源の活用、自然を生かした学習を積極的に推進している。

(3) 具体的な手立て

- ① ふるさとに生まれ、地域に貢献しようとする意欲を育む教育活動の推進
 - ・地域に貢献しようとする意欲を高める地域を教材とした探究活動の推進
 - ・地域人材、専門家等を積極的に活用した教育活動の実施
- ② 義務教育9年間を見通した計画的・継続的な教育課程の充実
 - ・小中接続のもと9か年の継続性ある指導の充実
 - ・乗入れ授業(中から小・小から中へ)や小中合同学習、とことんとの連携の計画的な年間実施

◇重点4 当事者意識をもち学校改善に努めるチームづくり

(1) 数値目標

- ・時間外在校等時間を1か月45時間、1年間360時間以下にする。(なお、学校の施錠は18:30とする)
- ・教職員の年次有給休暇の行使を10日以上にする。
- ・月2回の定時退勤日の実施
- ・コンプライアンスを徹底し違反・事故0

(2) 具体的な手立て

- ① 目的達成型の分掌組織による業務の推進と企画委員会の機能強化
 - ・企画委員会の裁量権の拡大による独自性と創造性の発揮
 - ・企画委員会を働き方改革コアチームに位置づけ、業務の必要性や効果、優先順位を検討し、業務の効率化を

推進

・教職としての専門性を高め、教育活動を充実させるための時間を生み出す教育課程の改善

②地域みんなで子どもを育てる環境づくり

・豊中学校区学校運営協議会(コミュニティ・エリア)での特色ある活動推進

・すべての保護者が全校児童を支えるためのPTA活動の推進

・幌向地区の人材や地域環境を活用した「ほろむい学」の推進。地域人材を子どもたちの学びへ

③信頼される職員集団

・挨拶、時間、服装、言葉遣い、電話対応、机上整理等教職員として自覚ある行動

・コンプライアンスの徹底:違反・事故・体罰・金銭・わいせつ事故等服務規律違反の防止

IV 各種評価結果と改善策

【令和8年1月19日(月)職員会議】

別紙資料をもとに職員全体での結果共有および担当の見解をもとに学校としての課題や成果について確認

〈成果〉

・「将来について考える」の項目が大幅に上昇(児童・保護者・教職員3者とも)

⇒地域資源(物的・人的)の活用が活発化し、またキャリア教育の充実や中学校との交流が盛ん
ことにより自分の先行きに対する見通しをもてるようになった効果

・「道徳の時間に互いの考えを交流することで自分の考えを深めることができる」の項目で3者とも
前年度を上回る

⇒岩見沢市教育研究所指定事業による授業改善やピア・サポートによる仲間との関係づくりによって
自分の考えを表現し、他人の考えを聴くことによってさらに考えを深め、広げることができた効果

・保護者のみの回答設問(8問中)において7項目で前年度を上回る

⇒保護者への情報発信・情報共有を丁寧に積み重ねてきた成果

一方で課題として

〈課題〉

・特に児童の回答で前年度より低下した「学校の居心地」「学習への意欲的取組」「基礎・基本学力形成」
「行事等への積極的参加」「あいさつや言葉づかい」といった項目の分析から

◎意識(評価)と客観的なデータによる学力の実態がリンクする教育活動展開の必要あり

⇒より「個別最適な学び」や「協働的な学び」につながる『(中学校区で研修重点としている)探究型の
授業』の在り方を構築することにより、児童の学習意識や達成感が醸成され、学校としての第一義で
ある「学力向上」が本当の意味で成し遂げられる。

◎学校が子どもたちにとってより学びやすい場となるための環境改善、強化

⇒基礎学力(わかる・できる授業)を保障し、ピア・サポートの取組を強め、授業特例校制度を活用した
特色ある教育課程をつくり上げることによって、児童の変容やさらなる成長につながり学校としての
ウェルビーイングが高まる。

を確認し、新年度に向けたより実効性ある計画を立て、充実した教育活動を推進できるよう体制を整える。

V 学校関係者評価を受けての改善策等

【令和7年2月19日(木) 豊中学校区学校運営協議会】

別紙資料をもとに委員全体での結果共有および担当の見解をもとに学校・地域としての課題や成果について確認

〈成果〉

- ・中学校と小学校が項目を一体化させて3年次をむかえ、データの比較も多角的、多面的にできるようになった。
⇒成果や課題も見えやすく、校区全体のものとして考えやすい
- ・「将来への考え」「安全指導」の項目で前年度を上回る
⇒中学校区としてめざす子ども像に掲げてきた「大人になること・働くことに憧れを抱く子どもの育成」から「志高くたくましく生きる子ども～夢を追いかけ楽しく学び感謝の心を忘れない幌向の子ども～」に変わり、教育活動を展開してきた成果であり、あわせて地域との関わりや結びつきを強め、運営協議会事業として行った「地域防災訓練」「スマイルフェスティバル」「子ども縁日大運動会」の効果も数値に表れている。

〈課題〉

- ◎これまで築き上げてきた「学校運営協議会」の成果をより確かなものとするために、これまでの取組を検証し一層改善を図る必要がある。特に地域の強みでもある「認定こども園」との連携を強化することにより、地域の宝物である子どもたちの育成に長きにわたり関われる体制を構築することによりさらに充実できる。
- ◎中学校区として取組が深化してきたことにより、より評価についても充実したものが求められる。今回、課題であったことを小・中ともに精査、改善をはかり、それを学校運営協議会で確認しながら展開する。

VI 資料

1. 岩見沢市立幌向小学校「学校評価」結果・分析
2. 岩見沢市立幌向小学校(豊中学校)「学校だより(2月特別号)」

令和7年度 学校評価アンケート



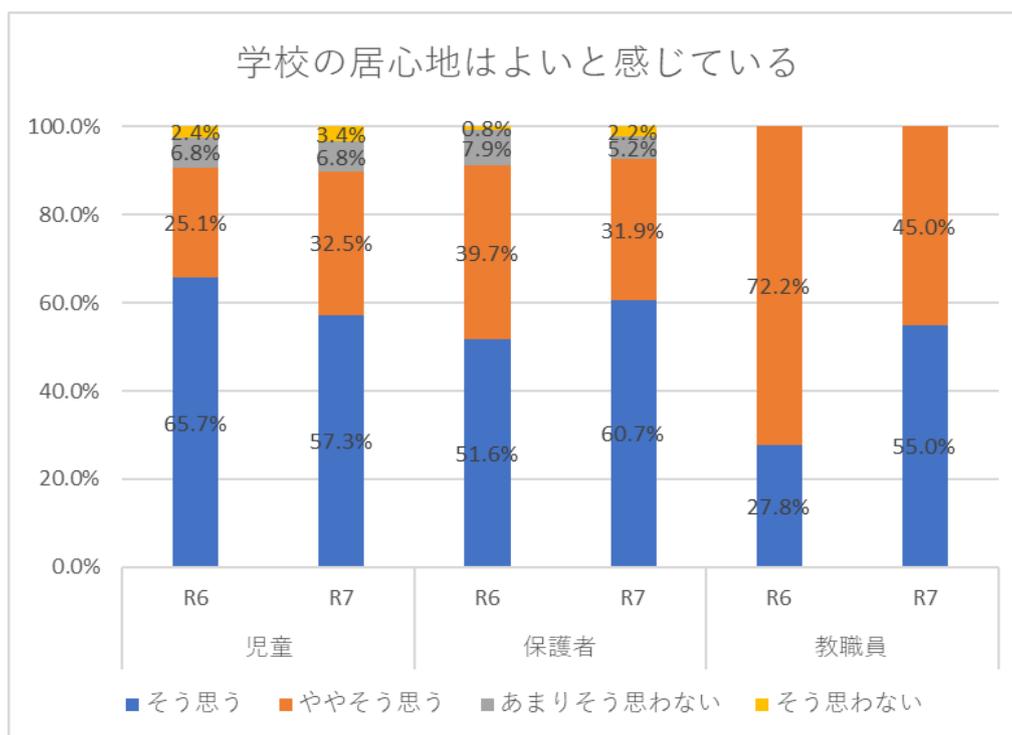
実施日時 12月2日～12月24日

実施人数	児童	保護者	教職員
	1年生 (18名)	135名	20名
	2年生 (41名)		
	3年生 (31名)		
	4年生 (33名)		
	5年生 (41名)		
	6年生 (42名)		

(1) 学校の居心地はよいと感じている

	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	65.7%	57.3%	51.6%	60.7%	27.8%	55.0%
ややそう思う	25.1%	32.5%	39.7%	31.9%	72.2%	45.0%
あまりそう思わない	6.8%	6.8%	7.9%	5.2%	0.0%	0.0%
そう思わない	2.4%	3.4%	0.8%	2.2%	0.0%	0.0%
肯定的数値	90.8%	89.8%	91.3%	92.6%	100.0%	100.0%

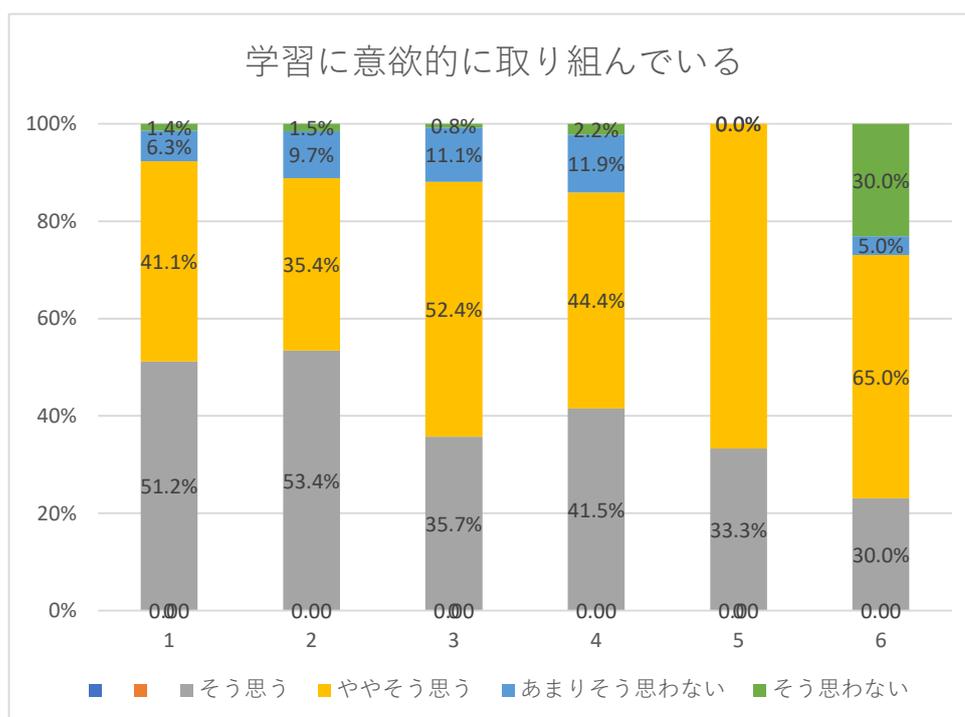
肯定的数値



肯定的な回答は約9割を維持しているが、児童の「あまりそう思わない・そう思わない」の回答がやや増加していること、保護者とのギャップも見受けられる。来年度も全校的に、ピアサポート等の実践を通して、親和的な学級・学年・学校づくりに務めていく必要がある。

(2) 学習に意欲的に取り組んでいる

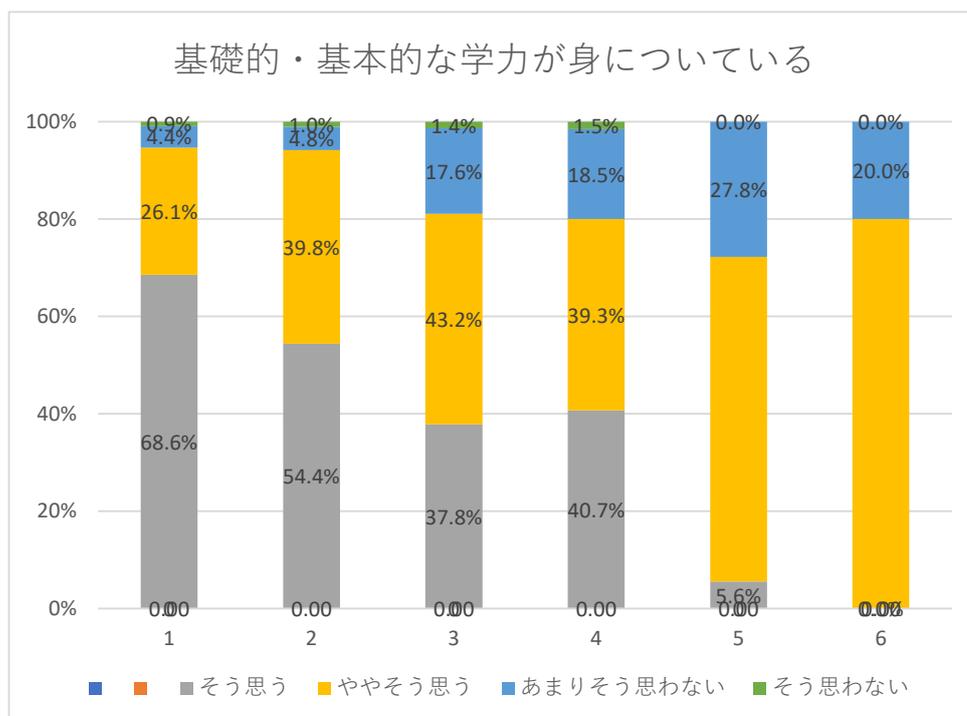
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	51.2%	53.4%	35.7%	41.5%	33.3%	30.0%
ややそう思う	41.1%	35.4%	52.4%	44.4%	66.7%	65.0%
あまりそう思わない	6.3%	9.7%	11.1%	11.9%	0.0%	5.0%
そう思わない	1.4%	1.5%	0.8%	2.2%	0.0%	0.0%
肯定的数値	92.3%	88.8%	88.1%	85.9%	100.0%	95.0%



児童・保護者ともに「そう思う」は増加しているものの、全体的に肯定率は低下している。「できた」を実感させる授業改善や個々の実態把握、家庭との連携強化が必要である。

(3) 基礎的・基本的な学力が身についている

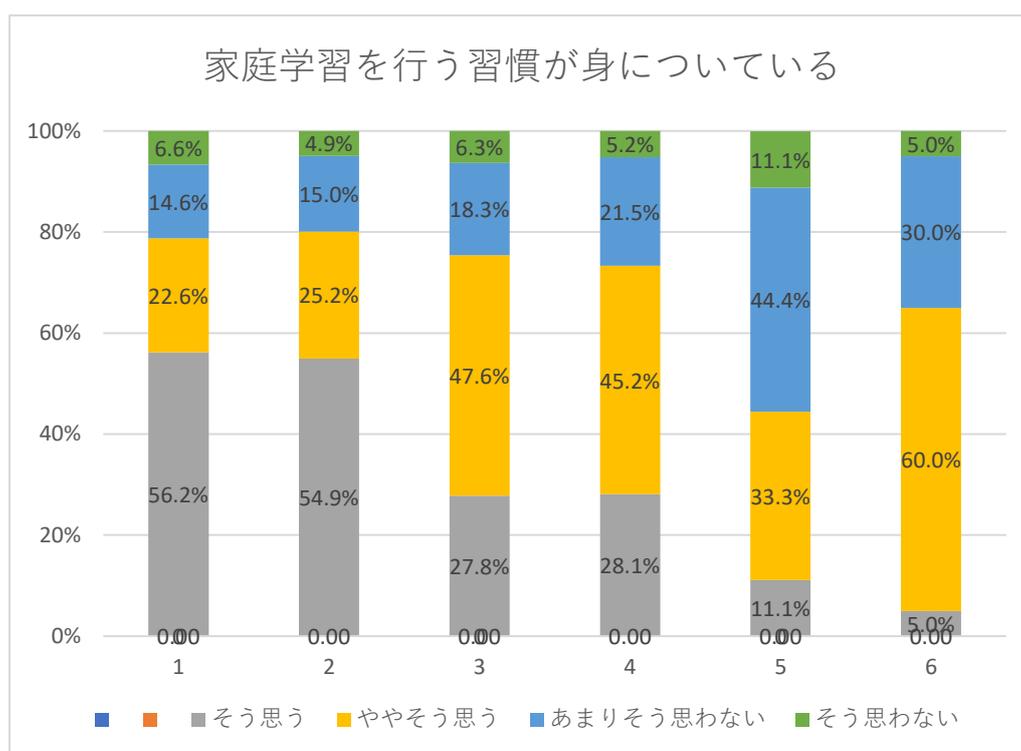
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	68.6%	54.4%	37.8%	40.7%	5.6%	0.0%
ややそう思う	26.1%	39.8%	43.2%	39.3%	66.7%	80.0%
あまりそう思わない	4.4%	4.8%	17.6%	18.5%	27.8%	20.0%
そう思わない	0.9%	1.0%	1.4%	1.5%	0.0%	0.0%
肯定的数値	94.7%	94.2%	81.1%	80.0%	72.2%	80.0%



教職員の肯定率は上がったのに対し、児童・保護者の数値は下がっている。児童のできた実感、個々の児童において、どの力がどこまで身についているかを実態を的確に捉え、具体的に伝えることも大切である。今後も基礎・基本を身につけるための学習指導に力を入れ、教材の工夫やICTの活用等を図りながら学力向上を目指していく。

(4) 家庭学習を行う習慣が身についている

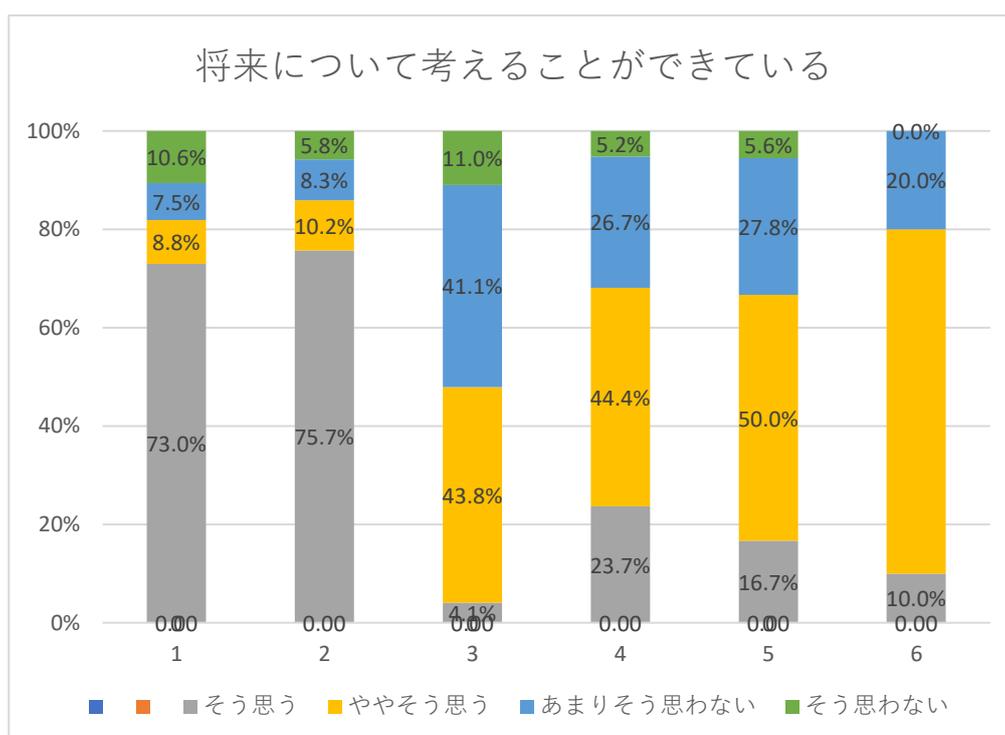
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	56.2%	54.9%	27.8%	28.1%	11.1%	5.0%
ややそう思う	22.6%	25.2%	47.6%	45.2%	33.3%	60.0%
あまりそう思わない	14.6%	15.0%	18.3%	21.5%	44.4%	30.0%
そう思わない	6.6%	4.9%	6.3%	5.2%	11.1%	5.0%
肯定的数値	78.8%	80.1%	75.4%	73.3%	44.4%	65.0%



児童は習慣がついていると感じているのに対し、保護者はそれほど実感していないというズレがある。家庭学習の内容や進捗状況が保護者に伝わっていない可能性も考えられる。引き続き「自分に必要な学習に自ら取り組む姿勢」を目指し、学校と家庭とが協力して家庭学習の習慣を身につけられるよう指導していく。

(5) 将来について考えることができている

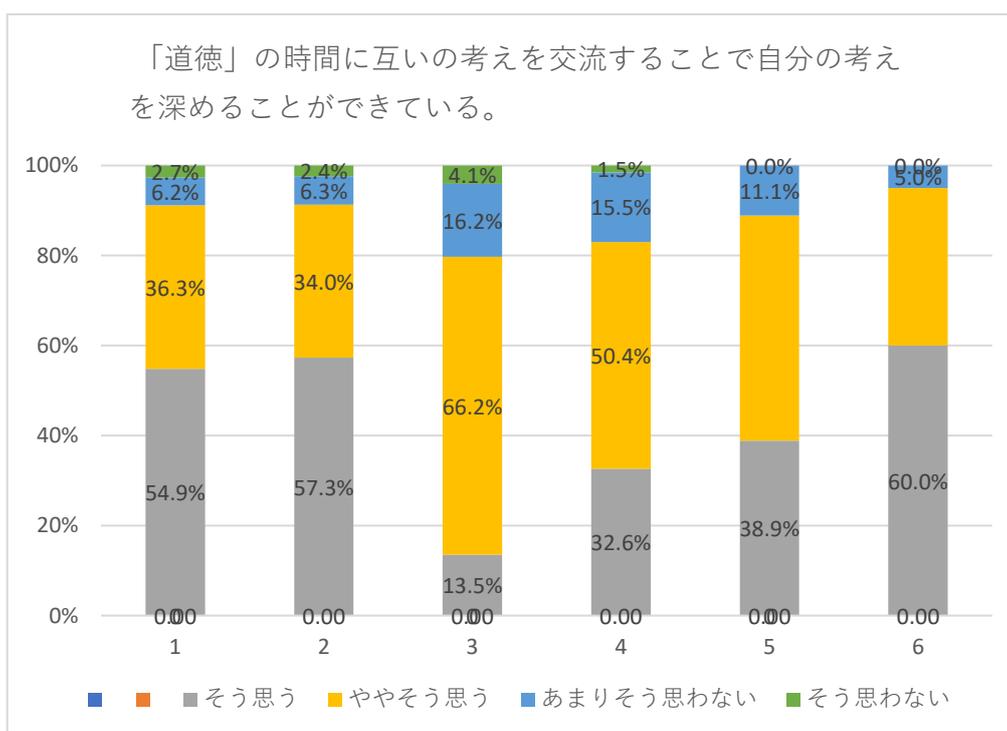
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	73.0%	75.7%	4.1%	23.7%	16.7%	10.0%
ややそう思う	8.8%	10.2%	43.8%	44.4%	50.0%	70.0%
あまりそう思わない	7.5%	8.3%	41.1%	26.7%	27.8%	20.0%
そう思わない	10.6%	5.8%	11.0%	5.2%	5.6%	0.0%
肯定的数値	81.9%	85.9%	47.9%	68.1%	66.7%	80.0%



3者ともに「将来について考えることができている」という認識が上がった。道徳や総合的な学習の時間、中学校区におけるキャリア教育の取組にも成果として表れてきたと考える。児童の実感に比べると、保護者の評価は少し低めである。家庭でも将来について話し合う機会を持つ等、情報提供があってもよいと考える。

(6) 「道徳」の時間に互いの考えを交流することで自分の考えを深めることができている。

	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	54.9%	57.3%	13.5%	32.6%	38.9%	60.0%
ややそう思う	36.3%	34.0%	66.2%	50.4%	50.0%	35.0%
あまりそう思わない	6.2%	6.3%	16.2%	15.5%	11.1%	5.0%
そう思わない	2.7%	2.4%	4.1%	1.5%	0.0%	0.0%
肯定的数値	91.2%	91.3%	79.7%	83.0%	88.9%	95.0%

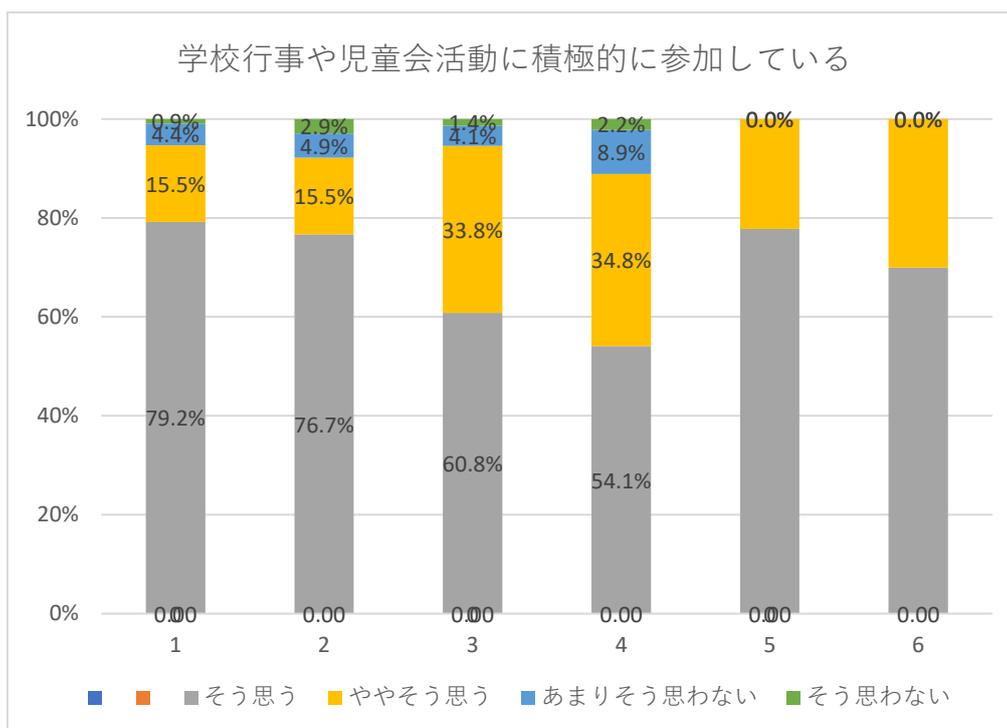


昨年度に続き、肯定率が高い。今後も「道徳」の授業において児童が主体的に参加し、より自分の考えを深めていけるよう、取組を強化していく。そして交流を通して深めた考えを、日常生活での行動にどう繋げていくかといった実践的な側面も追求していけるとよい。

(7) 学校行事や児童会活動に積極的に参加している

	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	79.2%	76.7%	60.8%	54.1%	77.8%	70.0%
ややそう思う	15.5%	15.5%	33.8%	34.8%	22.2%	30.0%
あまりそう思わない	4.4%	4.9%	4.1%	8.9%	0.0%	0.0%
そう思わない	0.9%	2.9%	1.4%	2.2%	0.0%	0.0%
肯定的数値	94.7%	92.2%	94.6%	88.9%	100.0%	100.0%

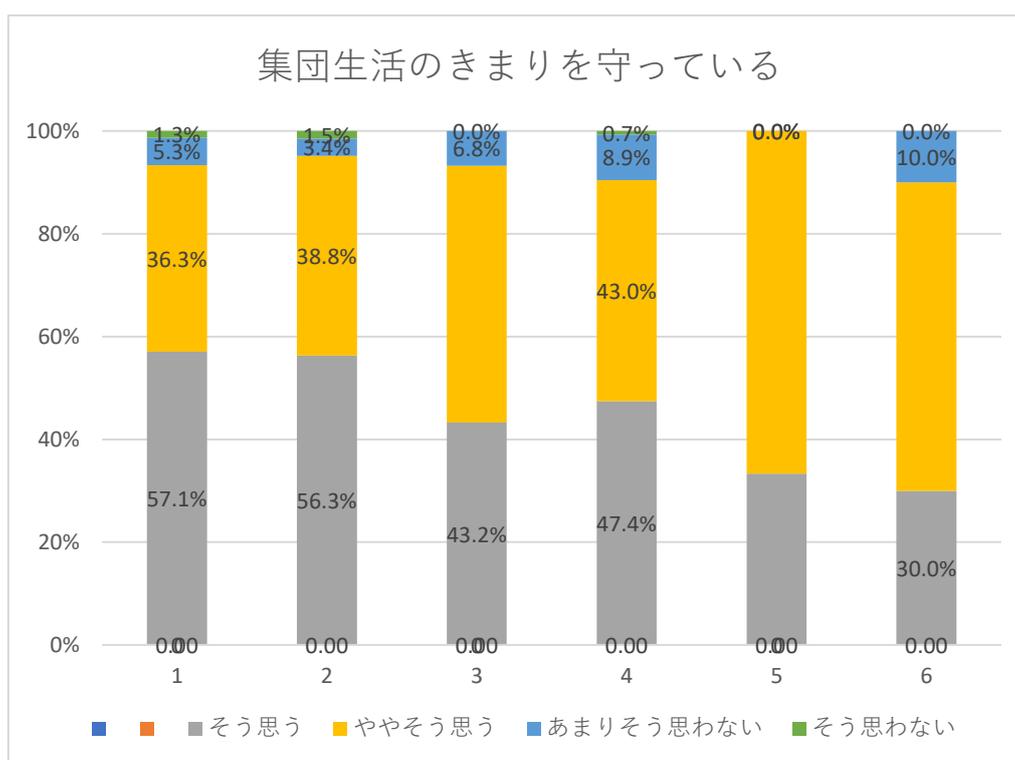
肯定的数値



教職員の肯定的数値が100%であるのに対して、児童・保護者は昨年に比べて下がっている。単に「参加している」だけでなく、「どのように、主体的に、楽しんで」関わっているのかという部分にも目を向けていきたい。次年度は、児童の創意・工夫が一層生かされ、児童自身が参画意識を持てるような行事の企画・立案をしていく。

(8) 集団生活のきまりを守っている

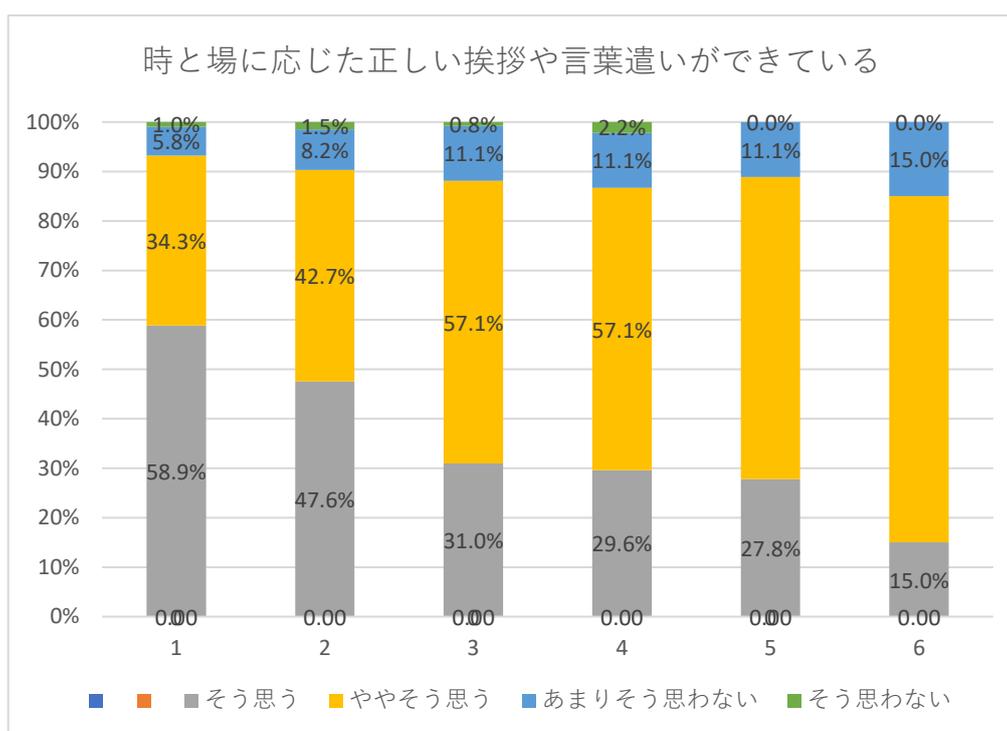
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	57.1%	56.3%	43.2%	47.4%	33.3%	30.0%
ややそう思う	36.3%	38.8%	50.0%	43.0%	66.7%	60.0%
あまりそう思わない	5.3%	3.4%	6.8%	8.9%	0.0%	10.0%
そう思わない	1.3%	1.5%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%
肯定的数値	93.4%	95.1%	93.2%	90.4%	100.0%	90.0%



児童の肯定的数値が95.1%とよい評価である。児童自身の規範意識が高まっていることがわかる。一方、保護者・教職員は約90%と若干差が見られる。保護者との連携や教職員間の共通理解の徹底を行っていきたい。

(9) 時と場に応じた正しい挨拶や言葉遣いができている

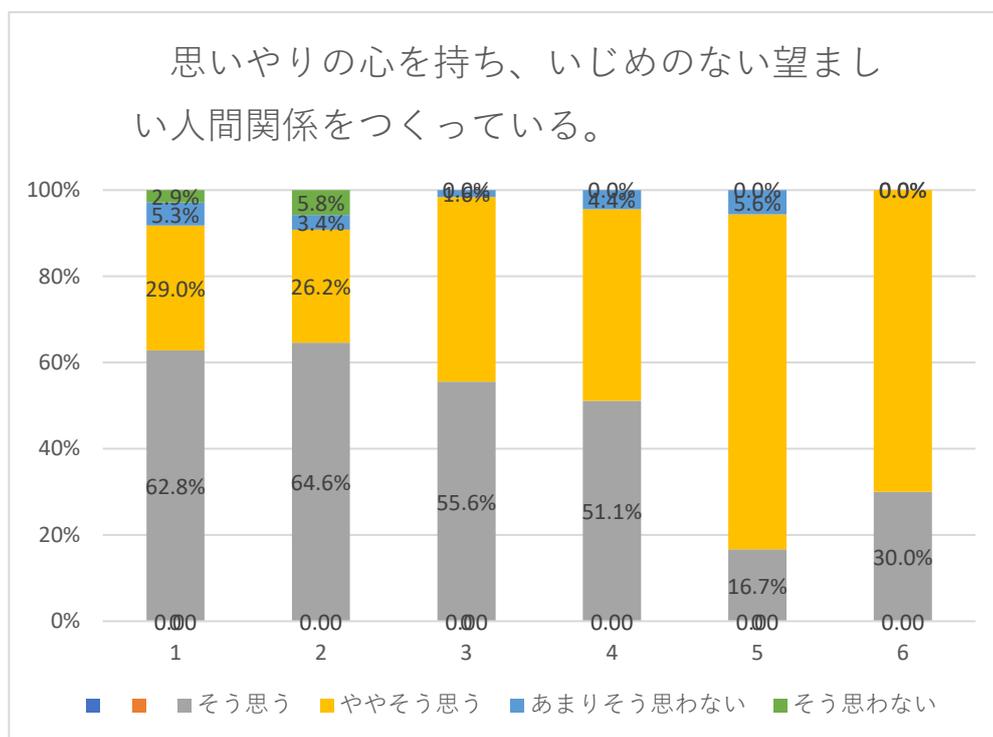
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	58.9%	47.6%	31.0%	29.6%	27.8%	15.0%
ややそう思う	34.3%	42.7%	57.1%	57.1%	61.1%	70.0%
あまりそう思わない	5.8%	8.2%	11.1%	11.1%	11.1%	15.0%
そう思わない	1.0%	1.5%	0.8%	2.2%	0.0%	0.0%
肯定的数値	93.2%	90.3%	88.1%	86.7%	88.9%	85.0%



3者とも肯定的数値が低下した。この結果を踏まえ、様々な場面で時と場をわきまえた挨拶や言葉遣いの場面での共通理解を図る等の改善策が必要である。

(10) 思いやりの心を持ち、いじめのない望ましい人間関係をつくっている。

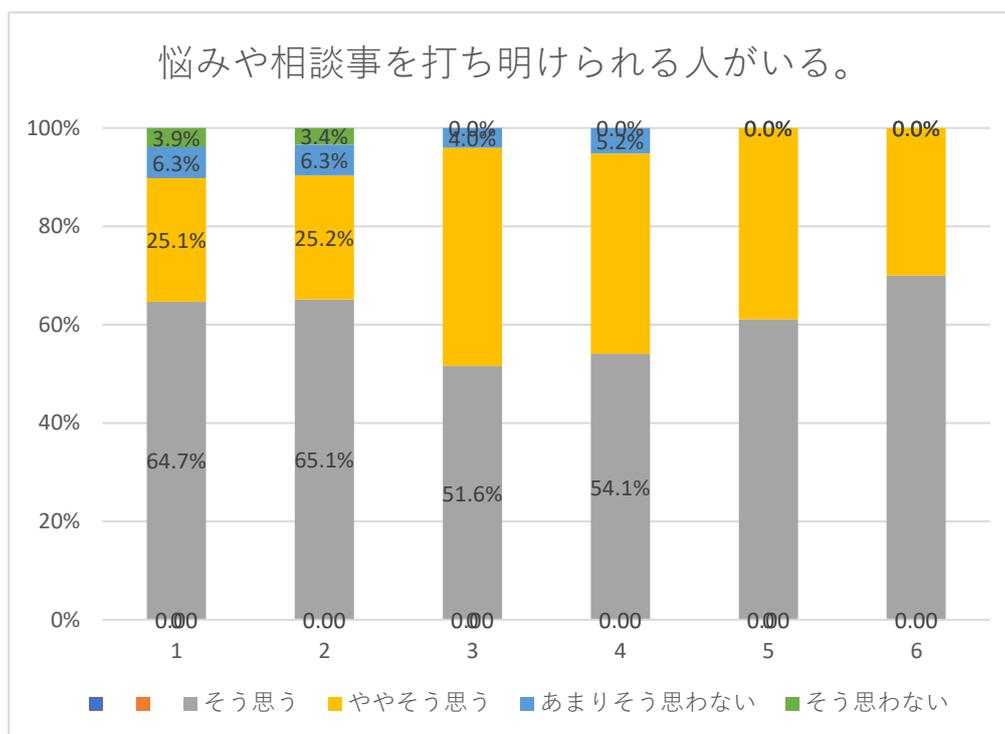
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	62.8%	64.6%	55.6%	51.1%	16.7%	30.0%
ややそう思う	29.0%	26.2%	42.9%	44.5%	77.8%	70.0%
あまりそう思わない	5.3%	3.4%	1.6%	4.4%	5.6%	0.0%
そう思わない	2.9%	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
肯定的数値	91.8%	90.8%	98.5%	95.6%	94.5%	100.0%



3者とも昨年度よりやや低下しているものの数値は90%を超えるものとなった。児童の人間関係が概ね良好であることを示している。一方で、「あまりそう思わない・そう思わない」と回答した児童がいる。細かい目配り、日常的な声かけを通し、問題や悩みを把握していくよう努める。

(11) 悩みや相談事を打ち明けられる人がいる。

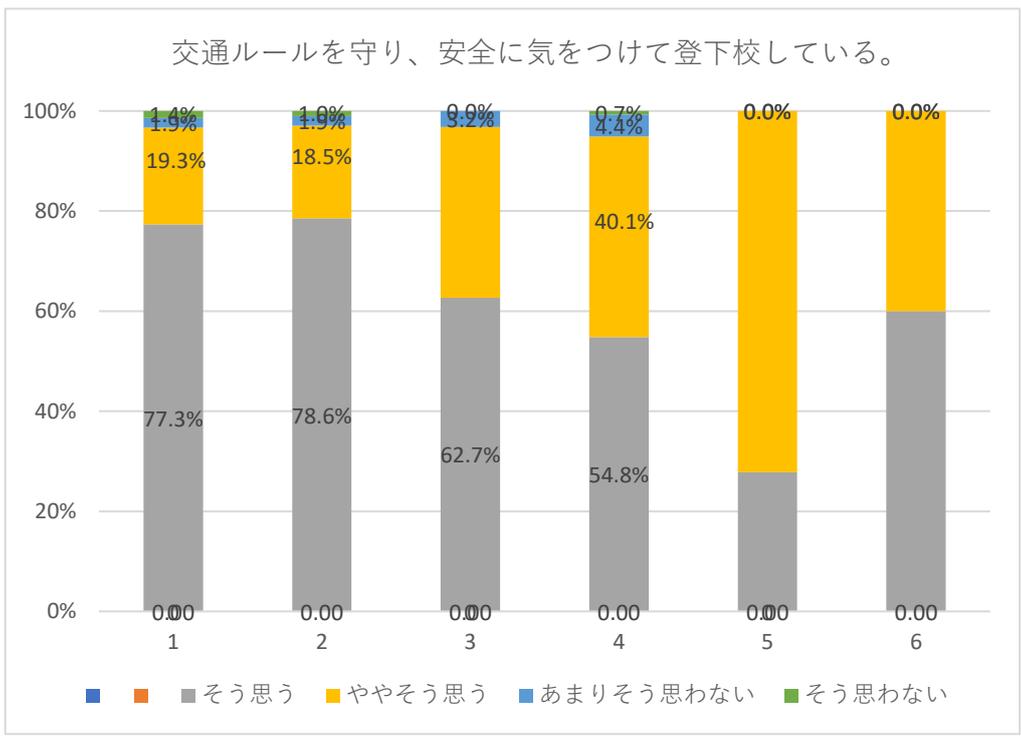
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	64.7%	65.1%	51.6%	54.1%	61.1%	70.0%
ややそう思う	25.1%	25.2%	44.4%	40.7%	38.9%	30.0%
あまりそう思わない	6.3%	6.3%	4.0%	5.2%	0.0%	0.0%
そう思わない	3.9%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
肯定的数値	89.8%	90.3%	96.0%	94.8%	100.0%	100.0%



児童の肯定率が僅かに増えた。担任の児童理解が深まり、良好な関係を築けていること、また、家庭での親子関係、学校での友人関係も良好であることの表れと考える。担任以外にも、学年団の教師が対応したり、保健室で養護教諭と話をしたりなど、受け止める場を大切にしてきたことの成果であると捉える。保護者の肯定率は少々下がっているが、94.8%を保っている。今後も児童を中心とし、家庭との連携を図っていく。

(12)交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校している。

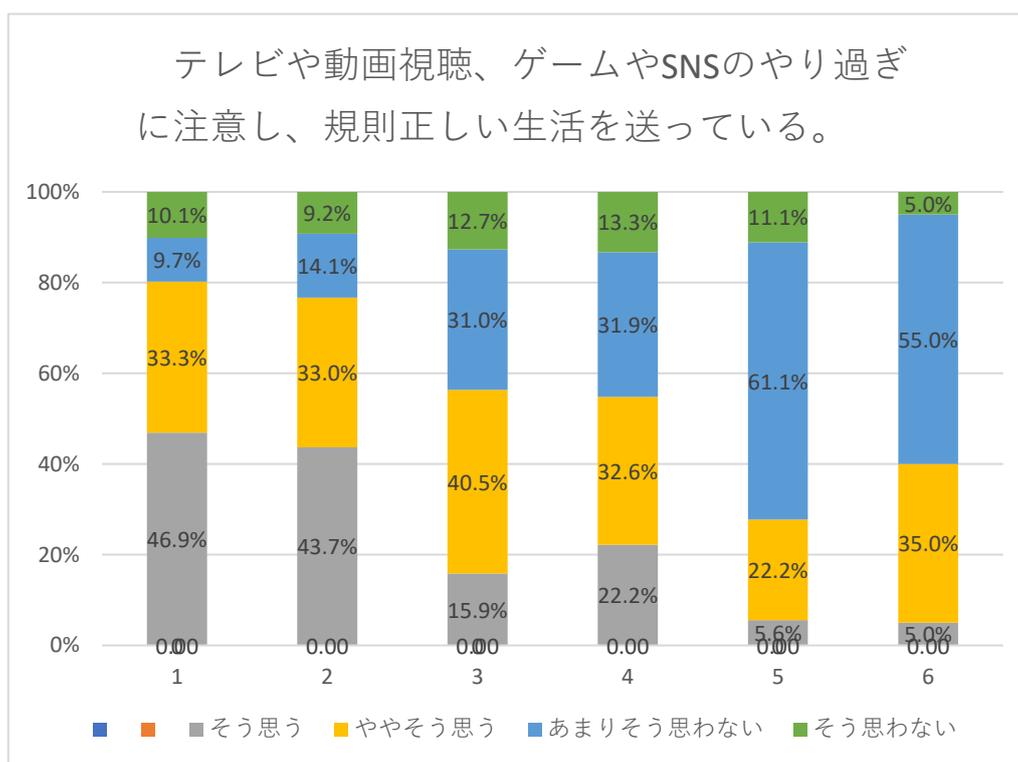
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	77.3%	78.6%	62.7%	54.8%	27.8%	60.0%
ややそう思う	19.3%	18.5%	34.1%	40.1%	72.2%	40.0%
あまりそう思わない	1.9%	1.9%	3.2%	4.4%	0.0%	0.0%
そう思わない	1.4%	1.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%
肯定的数値	96.6%	97.1%	96.8%	94.9%	100.0%	100.0%



肯定的数値が95%を超え、学校や家庭の安全教育の成果と考えるが、保護者の数値は下がっている。通学路による危険な行動や帰宅途中の友人とのトラブルは少なからず起こっている現状もあり、随時指導しながら安全な登下校ができるよう務める。

(13) テレビや動画視聴、ゲームやSNSのやり過ぎに注意し、規則正しい生活を送っている。

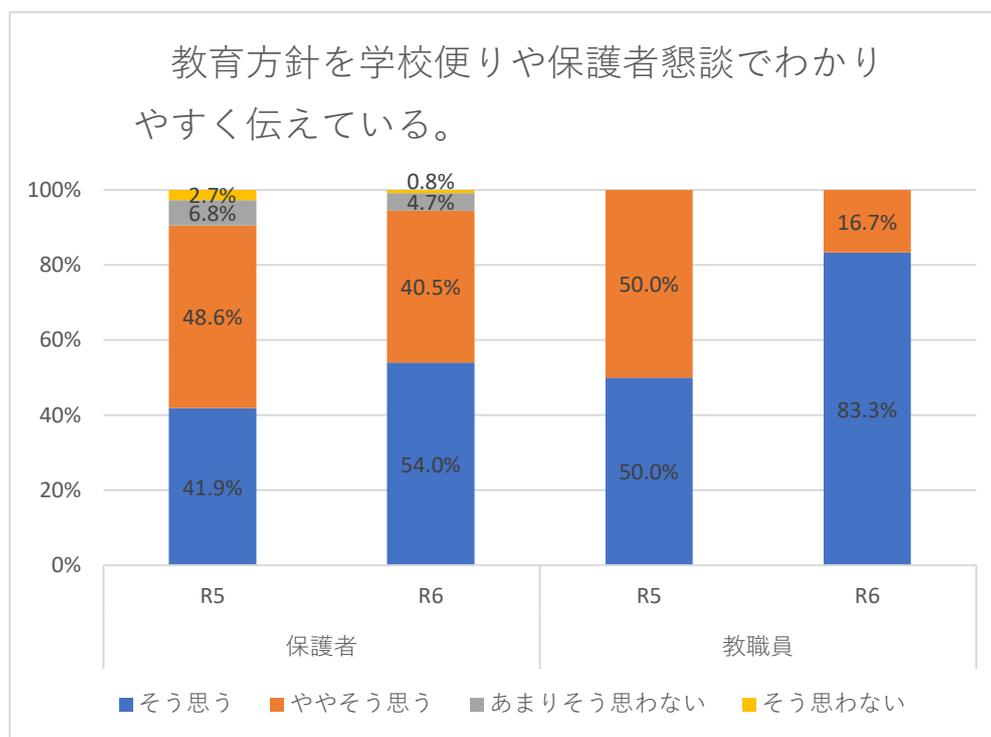
	児童		保護者		教職員	
	R6	R7	R6	R7	R6	R7
そう思う	46.9%	43.7%	15.9%	22.2%	5.6%	5.0%
ややそう思う	33.3%	33.0%	40.5%	32.6%	22.2%	35.0%
あまりそう思わない	9.7%	14.1%	31.0%	31.9%	61.1%	55.0%
そう思わない	10.1%	9.2%	12.7%	13.3%	11.1%	5.0%
肯定的数値	80.2%	76.7%	56.4%	54.8%	27.8%	40.0%



昨年度と比べると、肯定的数値は低下している。また、他の項目に対し、肯定的数値自体が非常に低い結果である。それに伴い、児童・保護者・教職員共に「あまりそう思わない・そう思わない」の回答が多い。心身の健康や学習面での問題にもつながる課題の残る結果であり、家庭学習の取り組みと関連させながら、学校と家庭と協力して改善策を練る。

(14) 教育方針を学校便りや保護者懇談でわかりやすく伝えている。

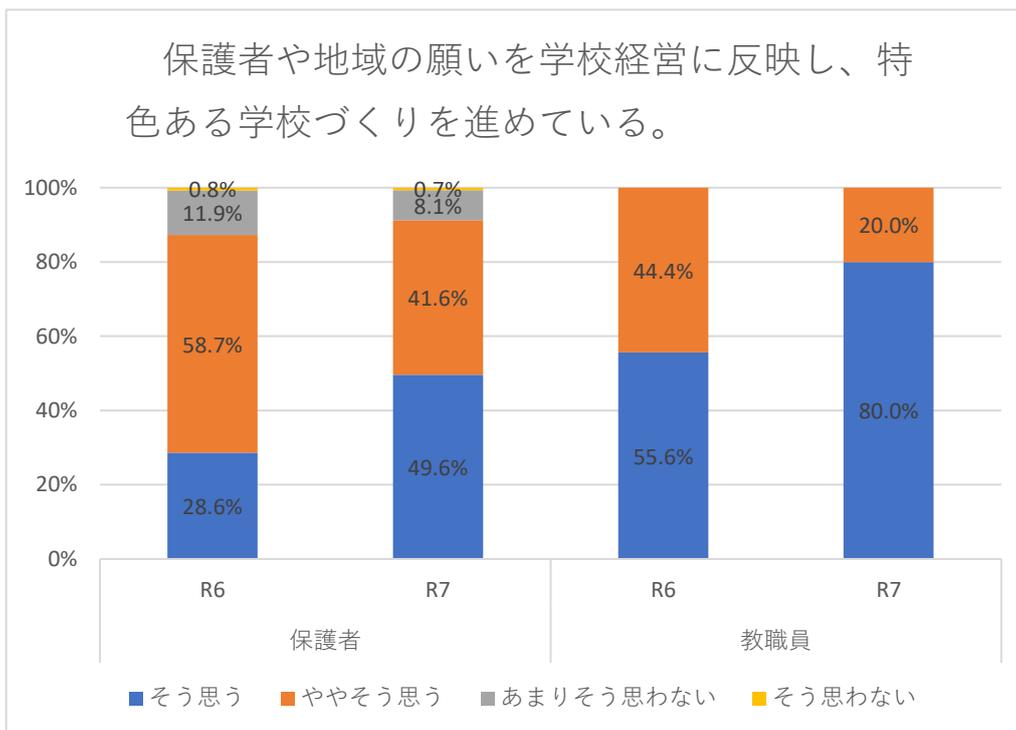
			保護者		教職員	
			R5	R6	R5	R6
そう思う			41.9%	54.0%	50.0%	83.3%
ややそう思う			48.6%	40.5%	50.0%	16.7%
あまりそう思わない			6.8%	4.7%	0.0%	0.0%
そう思わない			2.7%	0.8%	0.0%	0.0%
肯定的数値			90.5%	94.5%	100.0%	100.0%



今年度のアンケートで、当項目が抜けていました。大変申し訳ありません。データは昨年度のものです。今年度もtetoruが積極的に活用されておりますので、さらなる工夫改善に努めてまいります。

(15) 保護者や地域の願いを学校経営に反映し、特色ある学校づくりを進めている。

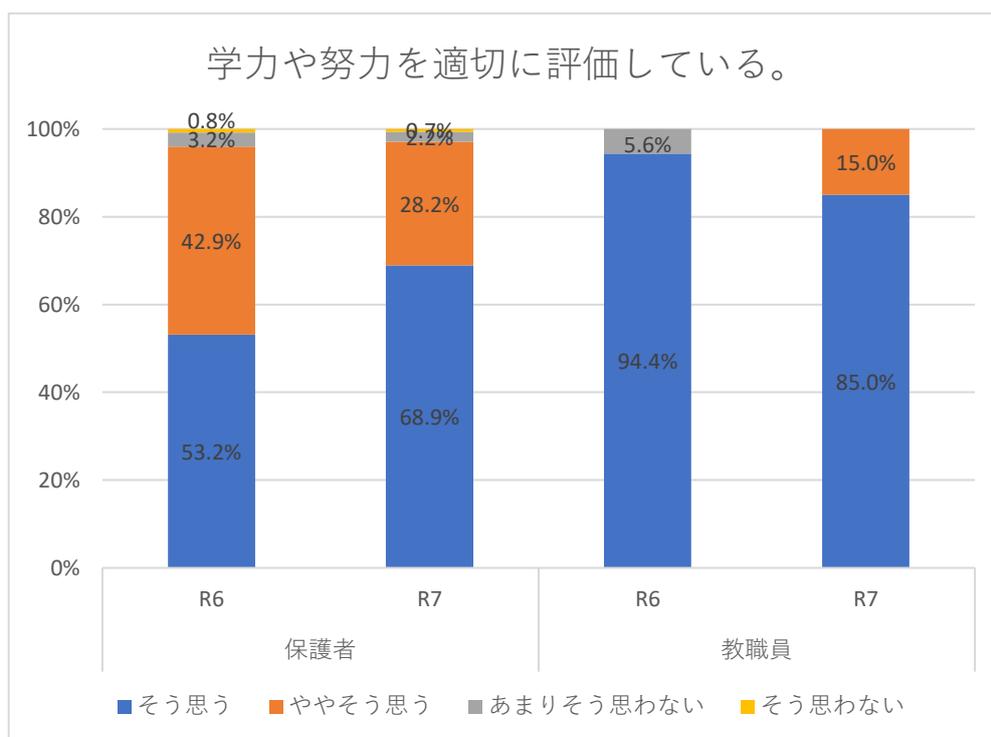
			保護者		教職員	
			R6	R7	R6	R7
そう思う			28.6%	49.6%	55.6%	80.0%
ややそう思う			58.7%	41.6%	44.4%	20.0%
あまりそう思わない			11.9%	8.1%	0.0%	0.0%
そう思わない			0.8%	0.7%	0.0%	0.0%
肯定的数値			87.3%	91.2%	100.0%	100.0%



昨年度に比べ、ポジティブ数値が増えた。今後も家庭と地域と連携しながら、さらなる工夫改善を図る。

(16) 学力や努力を適切に評価している。

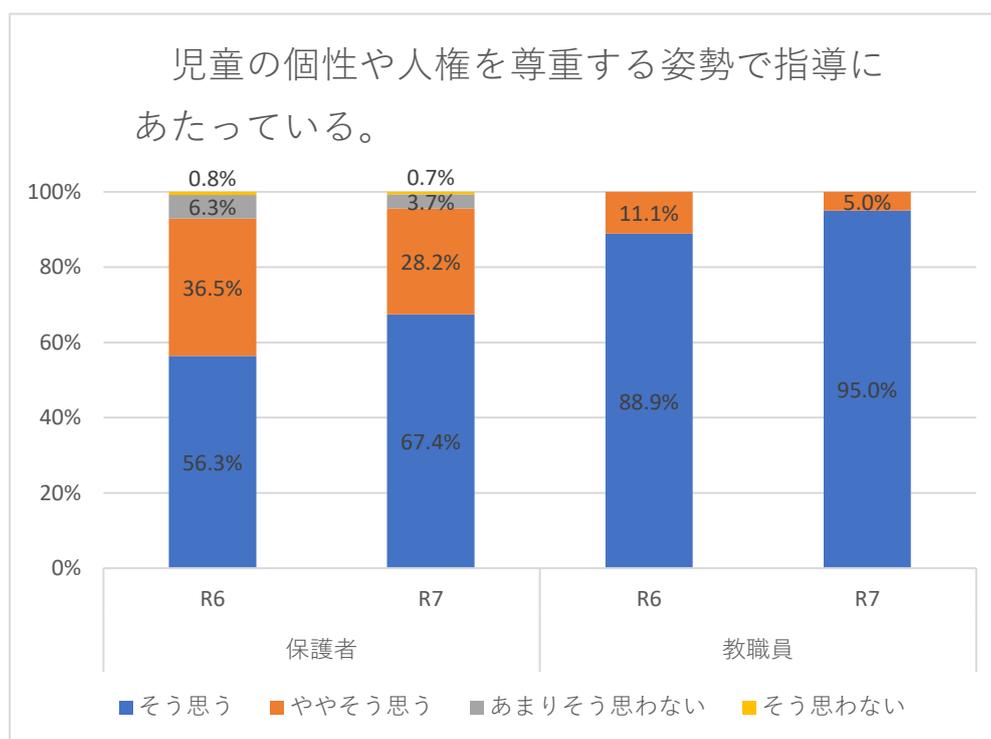
			保護者		教職員	
			R6	R7	R6	R7
そう思う			53.2%	68.9%	94.4%	85.0%
ややそう思う			42.9%	28.2%	0.0%	15.0%
あまりそう思わない			3.2%	2.2%	5.6%	0.0%
そう思わない			0.8%	0.7%	0.0%	0.0%
肯定的数値			96.1%	97.1%	94.4%	100.0%



保護者の肯定率は97.1%と、高い評価を得た。引き続き学校生活の様々な場面で児童の努力、成長を認め、伝えていきたい。今後も、児童が達成感を味わい、自己肯定感を持てるように、一人一人の児童の実態に応じた評価に努める。

(17) 児童の個性や人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。

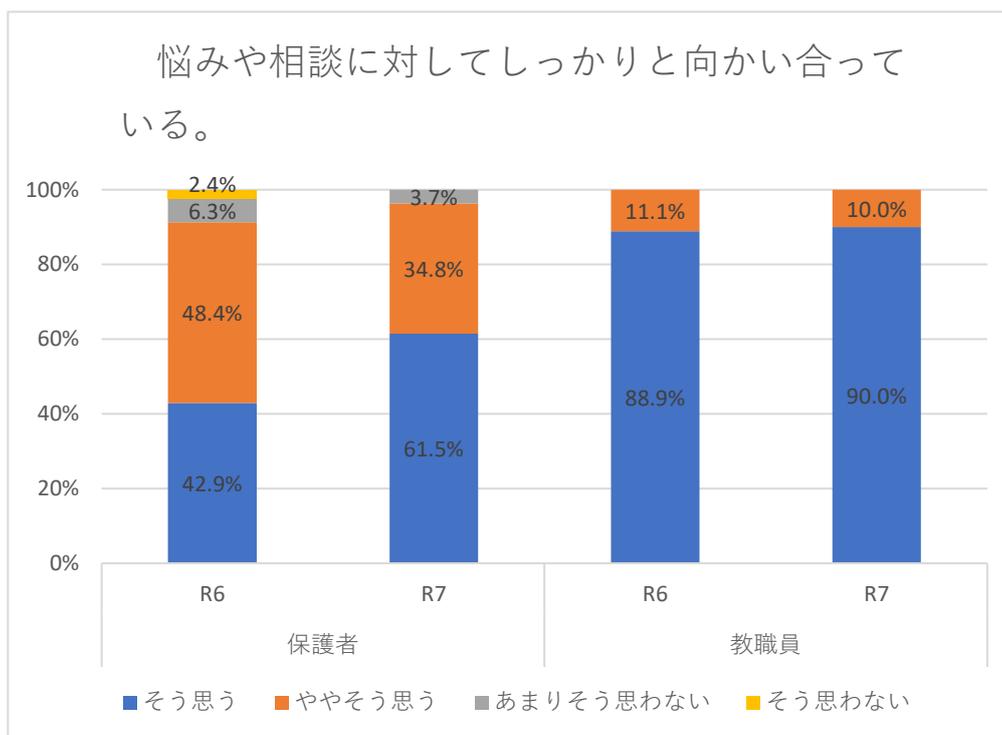
			保護者		教職員	
			R6	R7	R6	R7
そう思う			56.3%	67.4%	88.9%	95.0%
ややそう思う			36.5%	28.2%	11.1%	5.0%
あまりそう思わない			6.3%	3.7%	0.0%	0.0%
そう思わない			0.8%	0.7%	0.0%	0.0%
肯定的数値			92.8%	95.6%	100.0%	100.0%



両者とも数値が95%を超える評価であった。今後も、児童一人一人の実態を把握しながら、一人一人に寄り添っていく。

(18) 悩みや相談に対してしっかりと向かい合っている。

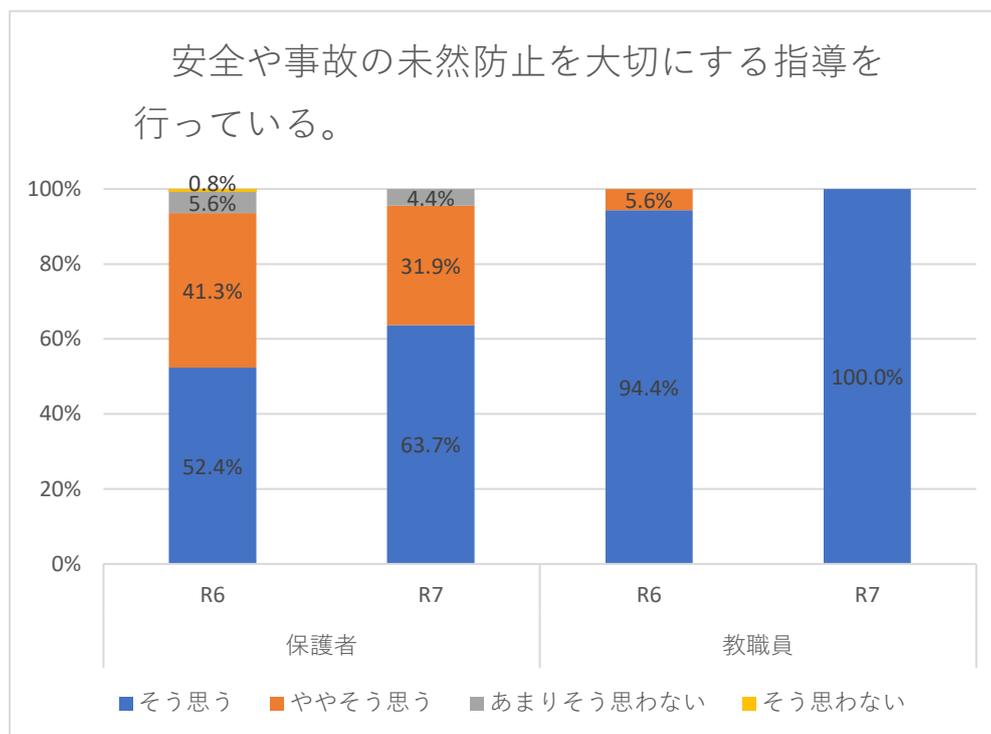
			保護者		教職員	
			R6	R7	R6	R7
そう思う			42.9%	61.5%	88.9%	90.0%
ややそう思う			48.4%	34.8%	11.1%	10.0%
あまりそう思わない			6.3%	3.7%	0.0%	0.0%
そう思わない			2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
肯定的数値			91.3%	96.3%	100.0%	100.0%



肯定的数値は94%を超え、昨年度より増えている。しかし、約4%の保護者から「あまりそう思わない・そう思わない」の回答があり、不安、不満を抱えていると考える。保護者との連携を密にし、信頼関係を築けるよう、今後も取り組む。

(19) 安全や事故の未然防止を大切にする指導を行っている。

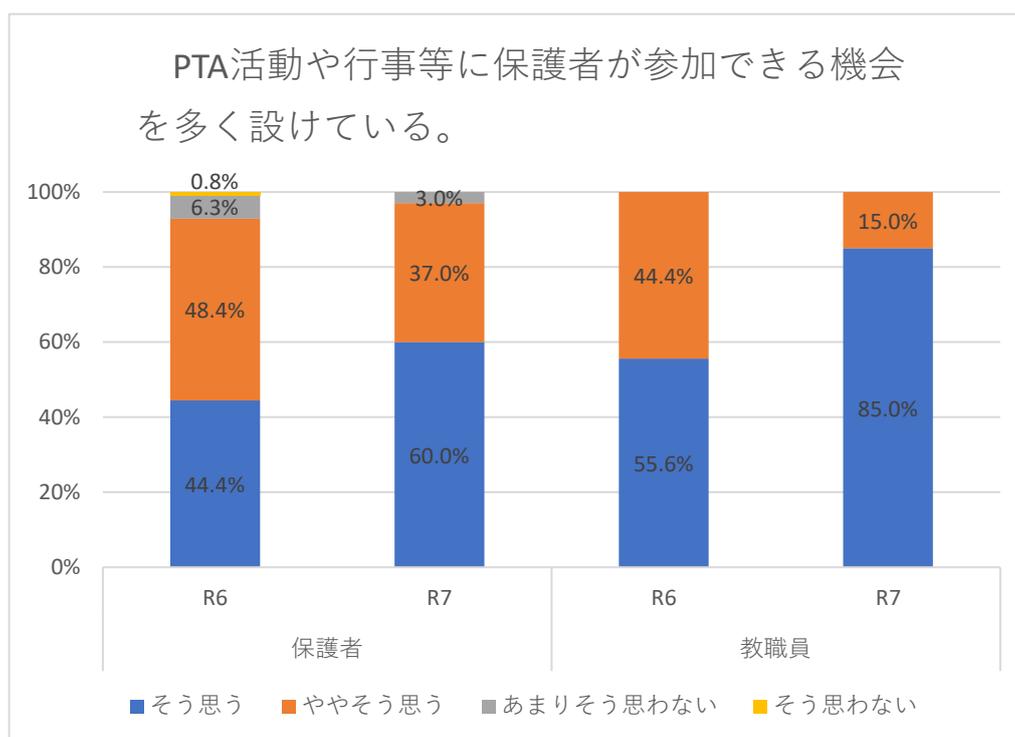
			保護者		教職員	
			R6	R7	R6	R7
そう思う			52.4%	63.7%	94.4%	100.0%
ややそう思う			41.3%	31.9%	5.6%	0.0%
あまりそう思わない			5.6%	4.4%	0.0%	0.0%
そう思わない			0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
肯定的数値			93.7%	95.6%	100.0%	100.0%



昨年度から95%を超える肯定的数値である。今後も、年間を通して事故を未然に防止するための指導を行う。

(20) PTA活動や行事等に保護者が参加できる機会を多く
 設けている。

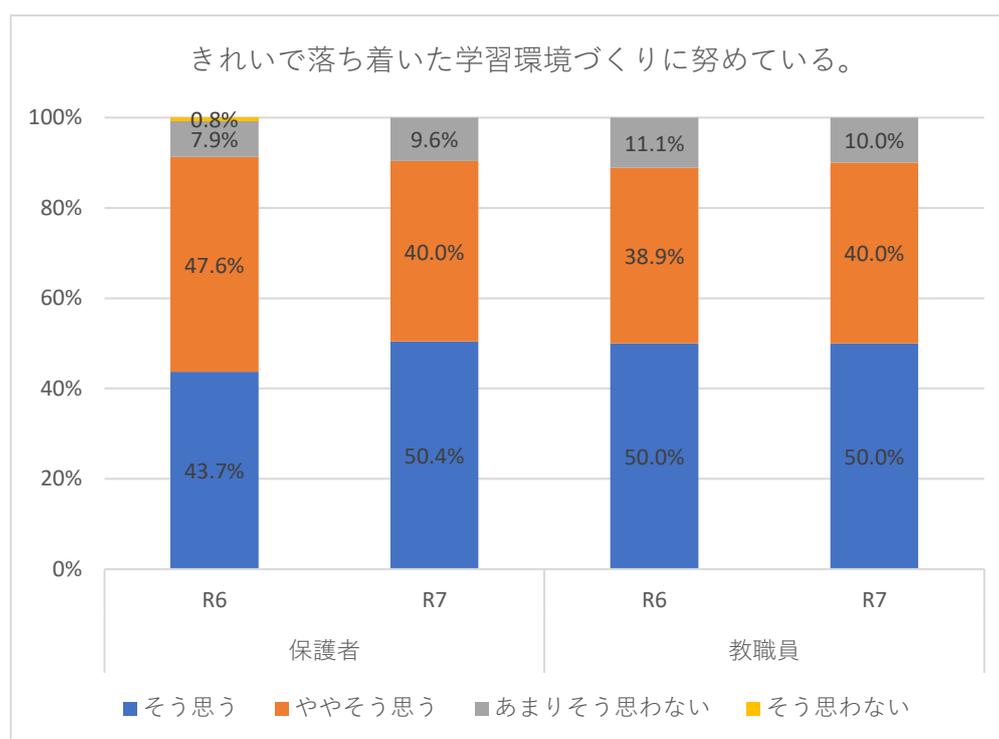
			保護者		教職員	
			R6	R7	R6	R7
そう思う			44.4%	60.0%	55.6%	85.0%
ややそう思う			48.4%	37.0%	44.4%	15.0%
あまりそう思わない			6.3%	3.0%	0.0%	0.0%
そう思わない			0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
肯定的数値			92.8%	97.0%	100.0%	100.0%



97%と高い肯定的な評価であった。歌声集会等、コロナ前と同様に参観可としたことや一日地域参観日（中学校と同日）の実施も大きい。行事なのあり方等も検討しながら、今後も保護者とともに楽しめる工夫をしていく。

(21) きれいで落ち着いた学習環境づくりに努めている。

			保護者		教職員	
			R6	R7	R6	R7
そう思う			43.7%	50.4%	50.0%	50.0%
ややそう思う			47.6%	40.0%	38.9%	40.0%
あまりそう思わない			7.9%	9.6%	11.1%	10.0%
そう思わない			0.8%	0.0%	0.0%	0.0%
肯定的数値			91.3%	90.4%	88.9%	90.0%



保護者の評価は僅かに低下してはいるが、90%を超える肯定的数値であった。運動会では、グラウンド整備やトイレ清掃で、PTAにも協力をいただいた。古い校舎ではあるが、児童とともに清掃活動に取り組みながら、きれいな環境づくりに努める。

ひるの

岩見沢市立幌向小学校 学校だより

☆ 特 別 号 ☆
令和 8 年 2 月 2 5 日
発行責任者 國 行 宏 昭

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度12月にお願いし、回答にご協力いただきました「令和7(2025)年度学校評価」の結果と学校としての分析を本特別号にてお知らせします。保護者の皆様や豊中学校区学校運営協議会でいただいた貴重なご意見を参考に、子どもたちが安心して通い、学び、成長できる学校づくりに、教職員一同力を尽くしてまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

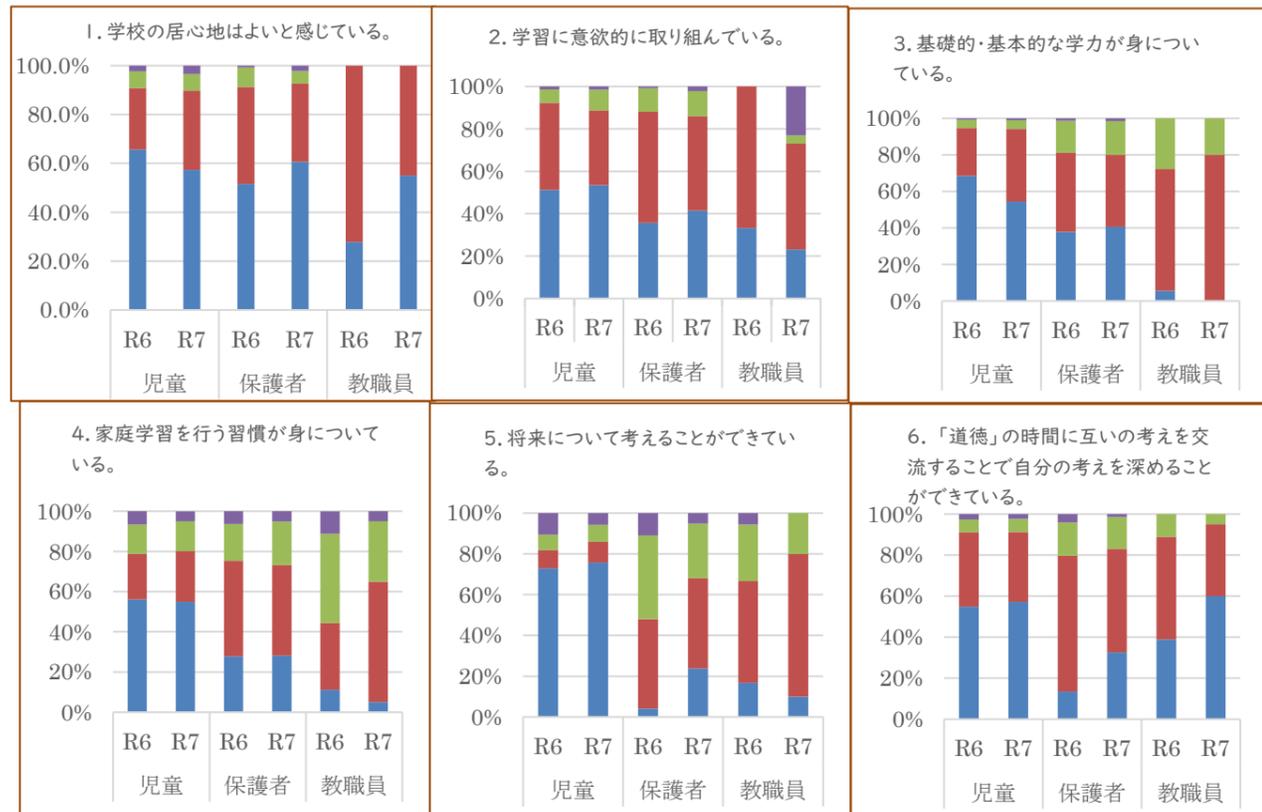
〈学校評価アンケートから〉

中学校と目指す子ども像を共有し、『志高くたくましく生きる子ども』を合言葉に小中連携した教育活動を進めてきました。【5「将来への考え」】【6「道徳の時間」】では児童・保護者・教職員3者とも昨年を大きく上回る結果でした。中学校区におけるキャリア教育や道徳の時間において、子どもたちの豊かな心の育成が高まったと考えます。また、地域との関連項目である【19「安全指導」】も前年比で上回り、小中学校と地域が一体となって取り組んだ「地域防災訓練」や「交通安全街頭啓発」等が保護者の皆様にも浸透している証拠と考えます。

学習面では、【3「基礎学力」】で昨年同様に児童の肯定的回答が94%を超えました。ICT の効果的な活用による学習状況の把握や、児童が主体的に学び「わかる・できる」授業の積み重ねにより基礎学力の定着に努めてまいります。

生活面では、【9「あいさつ・言葉づかい」】に低下が見られました。学校の様々な場面を通じた丁寧な指導に加え、地域と連携した挨拶運動の推進など、明るい挨拶とあたたかい言葉が行き交う環境づくりを進めてまいります。

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



〈記述についての回答・今後の方向性〉

※一部抜粋させていただいております

<p>教育活動 ①</p>	<p>・周りと比べることなく、自分自身を大切にまた、友達を大切に思える人間造りを小学校で身に付けて欲しいなと考えています。</p> <p>・今の担任は「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」ができていて、こちらも安心して送り出している。</p> <p>・いつも温かく見守り、指導していただき感謝しています。引き続き参観日などで子どもの様子を見させていただけると大変ありがたいです。</p> <p>・1日地域参観日は学校の雰囲気を知ることができ良かったです。またこのような機会があればと思います。</p> <p>・歌声集会、参観できて良かったです。子どもたちの生の歌声を聴くことができ感動しました。</p> <p>・「特色ある学校づくり」とはどのような特色の事なのかわかりません。</p> <p>・これまでの縦割り活動や歌声集会などの取組のおかげで小中の連携が取れていて、中学校に行っても先輩後輩と仲良くできる地盤が整っています。中学校に行ってから小学校のグラウンドを使わせてもらうなど、こうして学校が地域に開かれているとありがたいなと思います。小中学校が隣接しているこの環境を活かした活動を今後も続けていただけるとありがたいです。</p>
	<p>◎子どもたちが安心して自分を表現でき、保護者・地域の皆様と共に歩む学校づくりを目指すためにも、改善すべき点は改善し、より安心・安全な学校づくりを確実に進めていきます。</p> <p>地域参観日ならびに歌声集会につきましては、次年度も引き続き参観いただこうと考えております。</p> <p>◎本校の特色ある学校づくりとしましては、①「授業時数特例校制度」を活用した「特別活動」の充実～子どもたちが望む幌向小学校になるよう、子どもたち自身で考え、改善していけるような取組 ②地域・異校種と連携した教育活動～中学校・認定こども園との連携や地域行事や伝統行事等への参加を通し、自分も地域の一員であるという意識を持つ機会があげられます。今後もご家庭や地域の方々、学校との情報共有や支え合い関係づくりに努めてまいります。</p>
<p>教育活動 ②</p>	<p>・あゆみのコメント欄を元通りにしていただきたいです。</p> <p>・いつも大変お世話になっております。ピア・サポートで、先生も児童も個人を尊重する学習を進めていると思ったのですが、児童の心の面に少しでも歩み寄って、本人と気持ちを通わせる会話をしていただけるとありがたいです。先生によって色々な考え方や対応の仕方があると思いますが、心に寄り添ってもらえたらという思いで書かせていただきました。</p> <p>・多様な背景を持つ児童に1人1人寄り添い一緒に考えるという姿勢が素晴らしいと思います。教員には転勤があるので難しいかもしれませんが、このままのスタイルでいて欲しいと願っています。</p> <p>・子どもも学校が嫌いということもなく登校できるのも先生方が寄り添い、教育して頂けているからの事と思います。</p> <p>◎限られた文章ではお伝えしきれないお子さんの成長について、面談で直接お伝えすることを大切にしております。今後もご家庭との連携を強めるため、丁寧な面談に努めてまいりますので、積極的にご活用ください。</p> <p>◎お子さんへの関わりや言葉かけについて、深い思いを込めてお書きくださり、ありがとうございます。市全体でも取り組んでいる「ピア・サポート(受容・共感・傾聴)」をいかし、子どもたちに寄り添い、一人ひとりの感じ方や背景を大切にしながら、より丁寧な指導に努めてまいります。</p>
<p>情報提供</p>	<p>・保護者の参加がある学校行事の連絡は前月までをお願いしたいです。当月では仕事の調整ができないため。</p> <p>・いつもありがとうございます。お忙しいかと存じますが、少しでもブログの更新があると嬉しいです。</p> <p>◎学校行事や連絡のあり方について、貴重なご意見をありがとうございます。行事のねらいとともに、連絡時期について改善を図ってまいります。また、ブログに関してはサーバーの契約切れにより閉鎖となったため、1月より保護者限定のポータルサイト(HP)にて、子どもたちの活躍や学校での様子を発信しております。今後できるだけ多く発信できるよう努めてまいります。</p>
<p>施設・設備</p>	<p>・臭いや見た目などで学習環境にも影響するかと思いますのでトイレの改修が必要かと思っております。</p> <p>・トイレが綺麗でもっと行きやすくなれば良いと思います。</p> <p>・外階段が冬場、危険と思われるので、対策をしてほしい。</p> <p>・体育館の電気が暗く、消えているところも何か所かあります。設備の事なのですぐには無理かと思っておりますが、暗い中でスポーツを行うのは怪我にも繋がる恐れもあるので対応検討していただけるとありがたいです。</p> <p>◎昨年度も同様の意見をいただいております。トイレにつきましては、衛生面を高めるため換気扇を回し、消臭剤などもおいて対応しております。階段についても、冬場は砂利をまくなどして滑らないように対策をしています。体育館やその他の部分でも、市への要望など関係機関を通じて、引き続き要望していきます。</p>

<p>その他</p>	<p>・運動会では練習の時点で勝つ組が明白になっていて当日覇気がなく、頑張る子どもの成長が感じられませんでした。紅白の組み分けも、本番でどちらが勝つのか分からない様にバランスよく組んでくれるとより楽しくなります。</p> <p>◎子どもたちが最後まで意欲を持って取り組める環境づくりは、学校としても重要だと考えております。組み分けは、公平性を考慮しつつ「集団としての成長」や「多様な役割での活躍」といった目標に基づき、総合的に判断しております。本番でどの子も全力を出し切り、仲間と知恵を出し合って工夫することの楽しさを実感できるよう、指導の在り方を検討するとともに、子ども達自身のアイデアを生かし、自分たちで作り上げる運動会という意識と意欲を持って取り組める運動会に改善してまいります。</p> <p>・いつも校門前で挨拶やお掃除をしてくださる校長先生、教頭先生ありがとうございます。個人的には学年レクリエーションは不要なのではないかと思っております。計画する保護者にも負担が偏ります。休みをとらなくてはならない保護者もいて負担が生じているのではないのでしょうか。保護者の皆さんに意見を聞いて、今後無くしていく方向で考えてもいいと思います。</p> <p>・親子レクリエーションは、保護者が来られない子が悲しそうで、心苦しく感じました。</p> <p>◎親子レクリエーションにつきましては学校のみで判断できるものではなく、今後役員会で協議される内容となっております。いただいたご意見は、役員会にて今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>・少子化も進み、幌向地区は他から離れた地域のため、地域活動や交友関係などとても狭い範囲にとどまりがちと感じられます。今後、中学校も部活の種類も減り、他の地域に行かざるを得ない場面も出てくると思うので、他校との交流授業などがあると、子どもたちの視野も広がり、少し先の将来に目を向ける足がかりになるのではないかと考えています。</p> <p>◎子どもたちの視野を広げる取り組みとして意義のあるものと受け止めております。教育課程や移動・安全面等を考慮しながら、今後の課題として検討してまいります。</p>
	<p>〈児童の記述から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながやさしくなるように、みんなにあいさつする。 ・あいてのやなことをしないこと。ことばをきれいにする。 ・みんなで楽しく学習ができると、さらによくなります。 ・相手の気持ちを考える。 ・あいさつをして、みんなと笑顔にしたいです。 ・誰かと一緒に協力して何かに取り組んだり、教え合ったりしたい。 ・自分らしくいる。交流を深める。 ・思いやりを持つ。あいさつをもっとする。 ・楽しい行事を増やす。 <p>〈教職員の記述から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの教職員も同じ考えを持って指導にあたること、共有していく姿勢をもつことが必要。 ・一年後、卒業後、将来と考えて、どのように育っていくか。そのために今何が必要かを考えた指導を行う。 ・多様化、複雑化する中で余裕をもって対応できる環境づくり。 <div data-bbox="1694 1682 2804 1898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童のアンケートにも多くあった「挨拶」や「やさしさ」「思いやり」の心を大切に、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう取り組んでまいります。</p> <p>教職員一同、日々の関わりを大切にしながら、同じ思いで子どもたちを支えていくことを改めて確認いたしました。</p> <p>今後も保護者の皆様と力を合わせ、信頼される学校づくりを目指してまいります。</p> </div>